

問1 日本列島における旧石器時代の人々の生活や道具の特徴について、その背景を含めて説明したものととして、最も適切な記述はどれですか。（2023年 三重公立入試 類似）

1. ナウマンゾウやオオツノシカなどの大型の獲物を追って移動しながら生活し、狩猟や解体には打製石器を用いた。
2. 弓矢を用いてシカやイノシシなどの足の速い小動物を狩り、表面を磨き上げた磨製石器を主な道具として用いた。
3. 特定の場所に定住して竪穴住居を営み、食料を保存するために表面に縄目の文様をつけた土器を使用した。
4. 大陸から伝わった稲作の技術により食料生産が安定し、収穫のために石包丁などの打製石器を用いた。

問2 紀元前3世紀、戦国時代の中国を初めて統一した人物は、北方の遊牧民の侵入を防ぐためにそれまでの防壁を連結・整備しました。この人物として正しいものを次の中から選びなさい。（2024年 京都公立入試 類似）

1. 秦の始皇帝
2. 孔子
3. フビライ・ハン
4. 西郷隆盛

問3 「主権の源は、もともと国民にある」という主権在民の原則や、人間の自由と平等を高らかにうたった人権宣言が、当時のフランス社会において果たした歴史的な役割や背景として最も適切な説明を選びなさい。（2019年 香川公立入試 類似）

1. 絶対王政による専制政治を批判し、市民が政治の主役となる近代社会の指針を示した。
2. イギリスの植民地支配から独立するために、新たな連邦国家の建設を正当化した。
3. 産業革命による格差の拡大を防ぐため、労働者の団結権や社会権を初めて保障した。
4. 国王の権限を法的に制限することで、貴族が中心となって政治を行う立憲君主制を確立した。

問4 日本の歴史において、鎌倉時代や室町時代が含まれる1000年頃から1500年頃までの期間を「中世」と呼びますが、この時代から「近世」へと移り変わる大きな契機となった出来事の説明として、最も適切なものはどれですか。（2021年 大分県公立入試 類似）

1. 律令制度が確立され、天皇を中心とした中央集権国家が形作られた。
2. 織田信長や豊臣秀吉によって、全国的な検地や刀狩などの政策が進められた。
3. 明治維新が起こり、欧米の制度を積極的に取り入れた近代国家へと転換した。
4. 稲作が伝来し、それまでの狩猟・採集中心の生活から農耕社会へと変化した。

問5 マチュピチュを築いたインカ帝国の特徴について述べた文として、正しいものを選択してください。（2015年 千葉県公立入試 類似）

1. 文字は持たなかったが、結んだ紐の形や色で情報を伝える「キープ（結縄）」という手段を用いていた。
2. インダス川流域で栄え、高度な下水道完備やレンガ造りの都市計画を特徴としていた。
3. ナイル川の氾濫を利用した農業を行い、国王のために巨大なピラミッドを建造した。
4. カースト制度と呼ばれる厳しい身分制度を維持し、仏教やヒンドゥー教が興る基盤となった。

問6 キリスト教の聖地エルサレムをイスラム勢力から奪還するために行われた十字軍の遠征が、その後のヨーロッパの社会情勢に与えた影響として正しい説明を選びなさい。（2017年 三重公立入試 類似）

1. 遠征が失敗に終わったことでローマ教皇の権威が低下し、国王の権力が高まるきっかけとなった。
2. カトリック教会の権威が以前よりも強固になり、封建領主が各地で独立した権力を握るようになった。
3. イスラム教との交流が完全に遮断された結果、ヨーロッパ独自の自給自足的な経済が完成した。
4. 地中海東岸への遠征を通じて、北アフリカから西アジア帯をキリスト教勢力が完全に支配下に置いた。

問7 南アメリカのアンデス山脈付近に位置する世界遺産の遺構「マチュピチュ」を築いた文明について、その特徴を説明したものととして最も適切なものはどれですか。（2022年 三重公立入試 類似）

1. カミソリの刃も通さないほど精巧な石造建築物を築き、山岳地帯に広大な道路網を整備した。
2. 強大な騎馬軍団による機動力を活かしてユーラシア大陸にまたがる史上最大の帝国を築いた。
3. インド亜大陸においてイスラム文化とインド固有の文化を融合させ、タージ・マハルを建立した。
4. 地中海東岸を拠点に海上交易で活躍し、のちのアルファベットの原型となる文字を考案した。

問8 四大文明の一つであるメソポタミア文明について、その特徴や文化的な背景を説明した文として最も適切なものは、次のうちどれですか。（2021年 徳島公立入試 類似）

1. ティグリス川とユーフラテス川の増水時期を予測する必要から、天文学が発達し、太陰暦や六十進法が生まれた。
2. ナイル川の定期的な氾濫を管理するために、測量術が発達し、太陽暦や象形文字が使われた。
3. インダス川流域で都市文明が発達し、印章などに刻まれた独自の未解読文字が使われた。
4. 黄河や長江の流域で青銅器文化が発達し、亀の甲羅などに甲骨文字が刻まれた。

答え合わせ・解説

- 問1** **答え 1**
ナウマンゾウやオオツノシカなどの大型の獲物を追って移動しながら生活し、狩猟や解体には打製石器を用いた。
- 旧石器時代は氷河時代とも重なり、当時の人々は大型の動物を狩るために群れを追って移動を繰り返す生活を送っていました。そのため、獲物を仕留めたり解体したりするために、石を打ち欠いただけの鋭利な打製石器が活用されました。弓矢や定住生活、土器の使用は縄文時代、本格的な稲作や石包丁の使用は弥生時代の特徴であり、石包丁は磨製石器に分類されるため旧石器時代の説明としては誤りです。
- 問2** **答え 1**
秦の始皇帝
- 紀元前221年に中国を初めて統一した秦の始皇帝は、強力な中央集権体制を確立しました。北方の騎馬遊牧民である匈奴（きょうど）の侵攻に備え、それまで各国が築いていた長城を修築・連結して「万里の長城」を完成させました。孔子は春秋時代の儒教の始祖、フビライ・ハンは13世紀の元（モンゴル帝国）の皇帝、西郷隆盛は日本の幕末から明治にかけて活躍した人物です。
- 問3** **答え 1**
絶対王政による専制政治を批判し、市民が政治の主役となる近代社会の指針を示した。
- 当時のフランスは「アンシャン・レジーム」と呼ばれる古い身分制度により、第三身分である平民が重い税に苦しんでいました。人権宣言は、こうした国王による絶対的な支配や特権階級の内容を否定し、すべての人が生まれながらに権利を持つという新しい時代の理念を明確にしたものです。これにより、政治の正当性が国王の神授の権力ではなく、国民の意志に基づくこととされる「主権在民」の考え方が広まりました。
- 問4** **答え 2**
織田信長や豊臣秀吉によって、全国的な検地や刀狩などの政策が進められた。
- 1500年代後半における中世から近世への転換は、戦国大名による領国支配や、続く信長・秀吉による全国統一事業が背景にあります。特に太閤検地や刀狩によって武士と農民の身分が明確に分けられたこと（兵農分離）は、近世という新しい社会構造を決定づける重要な要素となりました。
- 問5** **答え 1**
文字は持たなかったが、結んだ紐の形や色で情報を伝える「キープ（結縄）」という手段を用いていた。
- インカ帝国は、15世紀から16世紀にかけて南アメリカ大陸の広大な範囲を統治した帝国です。独自の文字を持たなかったため、数字や情報を記録・伝達するために「キープ」と呼ばれる紐の結び目を利用していました。また、マチュピチュのような険しい山岳地帯に都市を築くための石造建築技術や、効率的な道路網（インカ道）を整備していたことも大きな特徴です。
- 問6** **答え 1**
遠征が失敗に終わったことでローマ教皇の権威が低下し、国王の権力が高まるきっかけとなった。
- 十字軍は長期にわたり遠征を繰り返しましたが、最終的に聖地を奪還できず失敗に終わりました。これにより、遠征を主導したローマ教皇の権威は衰え、多大な戦費を負担した封建領主や騎士も没落していきました。その一方で、勢力を維持した国王が中央集権的な国家体制を整え始め、中世社会の変化を促しました。また、遠征を通じて東方貿易が盛んになり、イタリアの諸都市が繁栄したことも重要な影響です。
- 問7** **答え 1**
カミソリの刃も通さないほど精巧な石造建築物を築き、山岳地帯に広大な道路網を整備した。
- インカ帝国は、高地という厳しい自然環境に適応し、山々の斜面に段々畑を作ったり、石を精密に加工して宮殿や神殿を建設したりしました。この高度な石造技術は、現代の建築家も驚くほどの精度を誇ります。他の選択肢はそれぞれモンゴル帝国、ムガル帝国、フェニキアに関する説明です。
- 問8** **答え 1**
ティグリス川とユーフラテス川の増水時期を予測する必要から、天文学が発達し、太陰暦や六十進法が生まれた。
- メソポタミア文明は、不規則な氾濫を繰り返すティグリス川とユーフラテス川の流域で成立しました。そのため、農業の管理に不可欠な暦や数学が高度に発達しました。この地域で生まれたくさび形文字は、のちに周辺の民族にも広まり、西アジア全体の文化の基礎となりました。選択肢にある「ナイル川」はエジプト文明、「インダス川」はインダス文明、「黄河・長江」は中国文明に関する記述です。